意見広告

株式会社ゆうネット 新型コロナウイルス関連情報発信センター
代表取締役 堤　猛
福岡県福岡市中央区天神4-1-17　2F
TEL 092-235-2470

お子さんやお孫さんにワクチンを勧める前に

国民の8割以上がコロナワクチンを接種し、すでにワクチンは一定の役割を果たしたと言えるだろう。しかし子どもたちへの接種については慎重さも必要かもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者427人・後遺症9人・死亡者6人

現在、**5～11歳のワクチン接種率は3％前後**（4月13日付厚労省HPより算出）と低調だが、そもそも未成年者が（0～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろう？

厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまで**12人**いるが、そのほとんどが重度の基礎疾患があったことが分かっている。**つまり健康な未成年者はほとんど死んでいないし重症化もしていない。**逆に新型コロナで亡くなった人の平均年齢は、男性の平均寿命81・6歳を上回る**82・2**歳だ。（東京都発表）

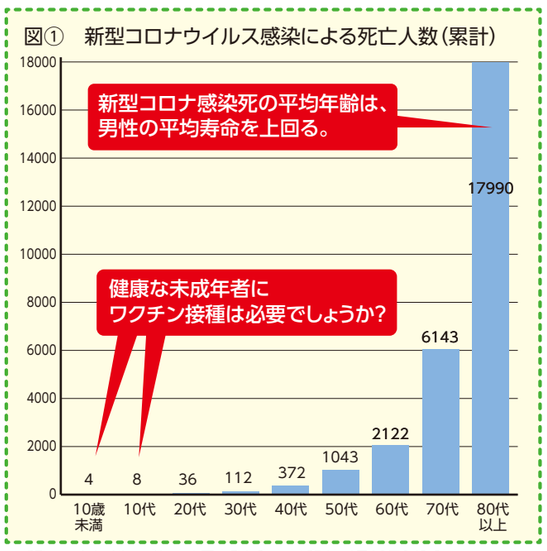
これまで**新たな変異株**が出るたびに、様々な専門家が**「子どもも重症化する可能性がある」**と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータから読み取れる。

ところが未成年者がワクチンを打つことによって、多くの重篤者（命の危険が切迫している患者のこと）や死亡者が出てしまっている。昨年10月30日には**13歳の少年**がファイザー製ワクチンを接種した**4時間後**に入浴、浴槽内で水没しているところを発見されている。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1700人にも上り、そのうち重篤者は427人、後遺症9人、死亡者は6人。**20代も含めると副反応疑い報告が**7337人、重篤者1175人、後遺症29人、死亡者36人**にも上る。厚労省の医薬品等行政評価・監視委員会の議事録（3月18日）によれば**「子どもへのコロナワクチン接種は薬害レベル」**との発言も出ているが、すでに**本末転倒な状況**に陥っているのかもしれない。

この状況を招いた最大の要因は、国や自治体が躍起になって広めた**「周りの人のために接種すべき」**というスローガンではないだろうか。**「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」**等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要なくても、子どもや若者も**「家族や会社や社会のために接種すべき」**という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。

しかしその目的のために、子どもや若者達に自らの命や健康を賭けさせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。**大阪府泉大津市**の南出市長は、当初から若年層の接種に一貫して慎重な姿勢を示してきた。5～11歳の接種券の一斉送付を取り止め、その他にも**47の自治体が同様の対応をしている。**

図①　新型コロナウイルス感染による死亡人数（累計）



※新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（令和4年4月12日24時時点）

社会問題になりつつある「ワクチン後遺症」

厚労省は先月24日、ワクチン接種後に体調不良が長く続く人が全国で増え続けているとの指摘を受けて、都道府県に相談窓口や医療体制の確保を求める通知を出した。これは、実質的な**「ワクチン後遺症患者」**の存在を、厚労省が事実上認めたことを意味していると言えるだろう。世界各国でもワクチンの危険性が指摘され始め、米フロリダ州では、健康な子どもに対してワクチンを接種しないように勧告する方針を明らかにしている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起こっている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の**「臨床試験中の実験試薬」**だからだ。それは**人体への長期的な影響が誰にも予見できないこと**を意味する。

河野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「治験が省略されることなく実施され」、「長期的な安全性について特段の不安があるということはありません。」と断言している。ところが事実は違っていて、厚労省は「審議結果報告書」の中で**「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」**と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを**特例承認**で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起こるかが分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生殖機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザー社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分が確実に**卵巣**にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには**「不妊にならない」**との記載は一言もなく、ただ「現時点では、ワクチン接種が不妊の原因になるという科学的な根拠は報告されていません。」と書いてあるだけだ。

これについて大阪市立大学の井上正康名誉教授（下記参照）は「ワクチン接種は始まったばかりのため、不妊の根拠が報告されるとしたら、**これから数年～数十年後**のことである。何らかの異変や有害事象が起こる可能性は否定できない。**臨床試験中の実験試薬**とはそういうものであり、**動物実験で危険性が示唆されている治験薬**を生殖世代に接種すること自体、極めて非常識である」と警鐘を鳴らし続けている。**すでに全国の医師390人が連名でワクチン接種中止を求める嘆願書を厚労省に提出している**が、今後も死亡や健康被害が増え続ければ、**大規模な薬害事件**に発展する可能性もある。

ここに掲載した情報は、その大半が厚労省のホームページで公開されているものだ。ところがテレビやインターネットのニュース情報では、接種のメリットや安全性が強調されがちで、リスクは積極的には報道されにくい。**だからこそ自ら情報を取りに行くことが大切だ。**新聞や本など様々な情報に触れ、ワクチン接種のメリットとデメリットを正しく理解することが、今、国民一人一人に求められている。

（令和4年4月13日時点）

ワクチン接種と1600人超の死亡は本当に関係ない？

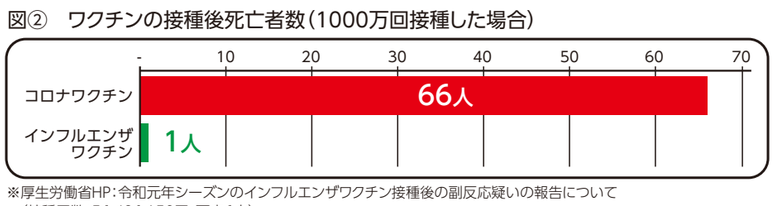
未成年者にとって有害なものは、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医者がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、4月1日時点で**1667人**（ファイザー製1535人・モデルナ製131人・アストラゼネカ製1人）に達している。しかし**ワクチン接種会場で突然死**した場合も含めて、厚労省は一人として**因果関係**を認めていない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り**「現時点で、新型コロナワクチンの接種が原因で多くの方が亡くなったということはありません。」**という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。

しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にはたまたま大勢の人が死亡するのに、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろう？（図②）その理由は**「たまたまの死亡」**ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、コロナワクチンの接種そのものが原因で多くの人が死亡した可能性も考えざるを得なくなる。

そして、この可能性は、ワクチン接種後の死亡者を**「接種後、何日目に死亡したか」**で分類すると、さらに現実味を帯びてくる（図③）。もし本当に死亡した人達がワクチンと関係なく、たまたまその日に何かの病気で死亡したのであれば、日毎の偏りはさほど大きくないはずで、**青線※**のように、ある程度ならされた分布になることが予想される。しかし実際には接種した翌日までに死亡した人が圧倒的に多く、**赤線**のような極端な分布になる。**この統計はワクチン接種と死亡との因果関係を示唆しているのではないだろうか。**

もちろん個々の因果関係は分からないが、死亡者の死因も千差万別ではなく、**血栓症**（血の塊が血管を塞ぐ病気）や**循環器系**（心臓と、全身に血液を循環させる血管ネットワーク）障害が圧倒的に多い。この偏った分布と死因を見る限り、ワクチンにはまだ明らかにされていない何らかの**有害性**があり、それが原因でこれまでに健康な子どもや若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できないだろう。

図②　ワクチンの接種後死亡者数（1000万回接種した場合）



※厚生労働省HP：令和元年シーズンのインフルエンザワクチン接種後の副反応疑いの報告について
（接種回数：56,496,152回、死亡6人）
新型コロナワクチンにおける副反応疑い報告の状況について
（ファイザー・モデルナ・アストラゼネカ推定接種回数：247,895,478回、死者1,635人/令和4年3月20日時点）

POINT!

厚労省HPに掲載されている
コロナワクチン3つの事実

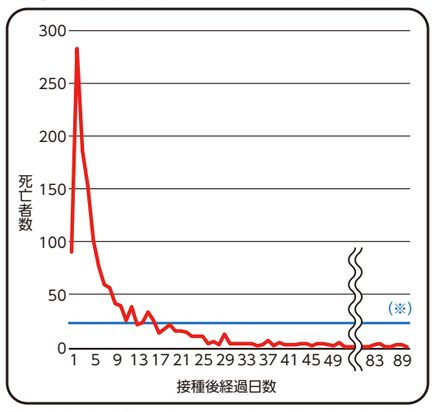
①インフルエンザワクチンと比べて、**接種後死亡**が圧倒的に多い。

②接種した**翌日までに死亡した人**が圧倒的に多い。

③接種後死亡者の死因は、**血栓症や循環器系障害**が圧倒的に多い。

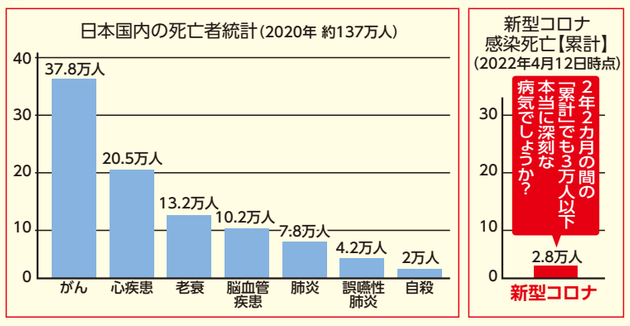
推測　「ワクチン接種」が原因で死亡した人がいるのでは？

図③　ワクチン接種後、何日目に死亡したか



厚生労働省HP　新型コロナワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要（令和4年4月13日）より作成

図④　※厚労省HP：死因簡単分類別にみた性別死亡数より作成



※上記内容のエビデンスはホームページ内に全て掲載しています。

井上 正康
大阪市立大学名誉教授
（分子病態学・医学博士）

感染症学、病理解剖学、分子病態学など幅広い医学知識から、俯瞰的に「新型コロナとワクチン」を分析。当初から一貫した見解を示し続け、『本当は怖くない新型コロナウイルス』など著作も多数出版、『ためしてガッテン』『世界で一番受けたい授業』『あるある大辞典』『ちちんぷいぷい』などテレビ出演も多い。4月5日に、衆参の国会議員を対象に「新型コロナとワクチン」に関する勉強会を国会内で開催している。

「簡単!10分で分かる新型コロナワクチンの危険性」

おすすめ最新書籍（参考文献）

まんがで分かりやすく解説!
「ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論5」（扶桑社）
著書：小林 よしのり
（令和4年3月26日発刊）

皆様からのご支援で活動しております。
累計寄付金額 257,739,323円（2021年11月30日～2022年4月19日10時30分時点）
全国紙も含め、累計49紙（発行部数1,747万部）に掲載

ワクチン接種後につらい症状が出た場合は…。
すぐに「肺CT画像と血中Dダイマー」を検査し、不幸にも亡くなられた場合は「病理解剖」を依頼しましょう。ワクチン接種と副作用の因果関係は、情報不足で「不明」と処理されることがほとんどですが、「予防接種健康被害救済制度」を適用してもらうためにも強くお勧めします。

その他ワクチンに関する詳しい情報はこちら▶
https://jcovid.net/
ゆうネット　意見広告　検索

メールまたは上記二次元コードよりご意見・ご感想をお寄せください　メール mail@dbank.jp